



鹿児島県青少年赤十字 賛助奉仕団会報

さくらじま

第13号

青少年赤十字賛助奉仕団信条

1. 青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
2. 赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
3. 志を同じくする人々と手を取りあい、研鑽に努める。

発行者

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団
発行
令和6年3月1日



人道の精神を伝える奉仕団活動

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長 針原 正弘

賛助奉仕団は、賛助会として発足して、今年度で五十一年目を迎えました。青少年赤十字が発足して百一年です。どちらにとっても新たなスタートの年でありました。

今年度は、賛助奉仕団第六プロジェクト研修交流会が、九年ぶりに鹿児島の地で開催されました。大会の計画づくりは、大変ではありましたが、しかし、団員一人一人が役割

を担い、大会の成功に向けて努める姿は、青少年赤十字に寄せる強い思いを感じました。

奉仕団員の一年のスタートは、各学校・園等の四、五月の登録式で始まります。五分から三十分と話す時間はまちまちですが、県内どこから呼ばれても駆けつけます。アンリーデュナンの人道の精神を伝え、青少年赤十字の一員である



青少年赤十字活動と教育基本計画

鹿児島県教育庁義務教育課企画調査係

指導主事 帖地 宏治

昨年十一月、「気づき・考え・実行する力を育む特別活動」学級活動と児童会活動の充実を図る指導の在り方」を研究主題とした鹿屋市立申良小学校での「青少年赤十字研究推進校研究発表会」に参加させていただきました。

授業では、学校生活における諸問題の解決や改善に向け、子供たちが異年齢によるグループで話し合い、学校生活をより良くしていくこととする積極的な姿を参観する

ことができました。さらに、学級活動の充実を図るため、日頃から話し合い活動のルールを共有、実践している取組やボランティア活動等についても紹介されました。

このような自治的能力を育む活動は、持続可能な社会の創り手を育むためにも重要であり、「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字活動の態度目標とも通ずるものであることから、今後ますます重視されるものです。

という自覚を一人一人の子供に促すために。

奉仕団員にとっても、子供たちに向けて話ができるというのは楽しみでもあります。

また、二年毎ではありませんが、加盟校訪問があります。青少年赤十字担当の先生や校長、教頭先生方と、青少年赤十字について語り合えるのは、私たちの活動の活性化にもなっています。

最後に全国賛助奉仕団は来年度で六十周年の節目を迎えます。青少年赤十字の活動が、さらに広がっていくことを願い、賛助奉仕団員は努力を重ねていきます。

また、昨年六月に策定された国の新たな教育振興基本計画においても持続可能な創り手を育成するために、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要であると示されています。

今後も、「人道」の赤十字精神に基づき、「気づき・考え・実行する」態度目標を念頭に置きながら教育活動を実践していくことにより、一人一人のウェルビーイングの向上が図られることを期待しております。

第六ブロック研修交流会 鹿児島県大会

総務部長 大山 健治

令和五年度全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会第六ブロック研修交流会が、令和五年十一月九日～十日の両日、県赤十字会館及びマリンパレスかごしまに於いて開催されました。

本研修交流会は、九州各県賛助奉仕団の情報交換や会員相互の研修を深めるために、各県持ち回りで毎年実施しており、本県開催は九年ぶりでした。本年度は九州各県から二十七名、本県から十八名、計四十五名が参加しました。

鹿児島県大会の開催に当たり、運営の準備として、主な日程、研修内容、懇親会、研修視察の検討等、それぞれの係り分担等について、八月から十月まで三回の打合せ会を実施しました。



また大会の案内、出席予定者の受付、宿泊等の予約については、県支部事業推進課にお願いしました。開催日当日は、本県賛助奉仕団の参加者には早めに集合してもらい、会場設営や打合せを行いました。

こうして県赤十字会館に於いて開会行事を迎えました。参加者全員での記念撮影の後は、研修Ⅰと研修Ⅱで本県活動の発表と各県の現況が報告され、活発に意見交換がなされました。

夜には恒例の懇親会がマリンパレスかごしまで開かれました。各県の皆さんと会食や会話が弾み、楽しく和やかに交流が図られました。

二日目は、研修Ⅲとして、鹿児島市城山近辺の史跡・名所を巡る研修視察が実施されました。ガイドは本県賛助奉仕団委員長の針原正弘氏が引き受けてくださいました。参加者は名所・旧跡にまつわる史実や人物のエピソードなど鹿児島島の魅力を十分感じていたのだと思います。

本研修交流会最後の閉会行事では、第六ブロック会長の長崎県の小川博行氏が大会の成果と感想を述べられました。また、熊本県委員長の野田実氏が次回開催に向けて抱負と決意を表明されました。参加した会員同士で、これからの賛助奉仕団の発展・継続と活動の充実を願う気持ちを共有し合った二日間でした。

本年度鹿児島県大会への皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。



鹿児島県奉仕団員の発表

研修Ⅰでは、森吉研一氏が「青少年赤十字を基にした学校経営」について発表しました。学校経営目標を「気づき、考え、実行する主体的な子供の育成」に変更し、児童会の目標ともリンクしたこともあり、目指す児童の姿に近づいていったことやこれまで青少年赤十字活動に関心の低かった職員も、いろいろな見方、考え方へ柔軟に対応できるようになったことの紹介がありました。

次に中山忠順氏が「鹿児島と赤十字」と題して、鹿児島県が赤十字

盛会の懇親会

親善部長 松田 義洋

今回初めて研修交流会に参加することになりました。自分の役割は親善部として懇親会の段取りをすることでした。

事前の打ち合わせに体調不良のため出席できず、針原委員長から資料をいただき、会場図などを準備しました。心配ばかりで当日を迎えることになりました。

当日は早めにホテルに入り、会場設営を念入りに行いました。その後本県団員のお手伝いもいただきました。

予定通り懇親会が始まり、お酒も入り和やかな雰囲気になりました。年一回再会できる喜びを語り合う参加者もいました。各県ごとの出し物も楽しいでした。

なんこ大会は予想以上に盛り上がり、時間があつという間に過ぎました。いろいろな人に感謝する一日でした。

に関わってきた歴史について発表しました。島津忠良(日新公)が一五四〇年に「六地藏塔」を建立したことや「日新いろは歌」を偏したこと、島津義弘が一五九九年に「朝鮮陣戦没者供養碑」を建立したことなど、「博愛社」や「日本赤十字社」が設立されるかなり以前に、赤十字の心を形として示したりリーダーが鹿児島に存在していたことの紹介でした。

研修Ⅱでは草留久之行支援助部長の鹿児島県賛助奉仕団活動の発表の後、各県の現状報告がなされました。

研修推進部

令和5年度 賛助奉仕団事業報告

Table with 4 columns: 月 (Month), 事業内容 (Activity Content), 開催日等 (Date/Time), 参加状況等 (Attendance Status). It lists various activities like regional meetings, training sessions, and conferences throughout the year.

※太字は、青少年赤十字賛助奉仕団の事業。

賛助奉仕団への思い

私自身の学びの場に 賛助奉仕団員 草野 芳人
三月に大変お世話になった方から定年に当たってのねぎらいのお言葉と共に、賛助奉仕団へのお誘いを受け、喜んで(？)四月から参加させていただきました。

態度目標である「気づき・考え・実行する」の意義を語りました。生徒会のメンバーも深く受け止めてくれた様子で、その後、学校内外で募金や様々なボランティア活動を積極的に展開してくれました。

賛助奉仕団員は何をすればいいの？
賛助奉仕団に加入し、活動に協力したい方が増えてきました。交流研修会の打ち合わせの際に、何かアドバイスはないか参加者からご意見を伺いました。

町内会長をしているが、自分が関わっている広報紙に青少年赤十字の情報を掲載している。コロナ禍で任意団体の活動が停滞し、活動自体が危機的な状況にきている。青少年赤十字の大切さを定期的・継続的に啓発し続けることを忘れてはならない。



令和5年度 賛助奉仕団組織表

Table showing the organizational structure for the 2023 fiscal year, including roles like 顧問 (Advisor), 委員長 (Chairman), 副委員長 (Vice-Chairman), 総務部 (General Affairs), 行事支援部 (Event Support), 研修推進部 (Training Promotion), and 親善部 (Public Relations).

御協力ありがとうございました。

登録式に参加して

副委員長 出水澤 孝洋

「校長先生、青少年赤十字活動の意義と大切さがわかりました。」登録式に参加した生徒の感想であり、私の実感でもありました。

校長が引つ張る形で青少年赤十字活動に取り組んで二年目、研修会等で学んだことを学校に持ち帰り、生徒や職員とその真似をしていたときのことでした。

講師の先生には、赤十字誕生の経緯や、青少年赤十字活動の実践目標や態度目標について講話をしていただきました。日頃から、私や担当職員が生徒に話していることと同じでした。しかし、講師の先生の言葉には説得力があり、生徒の心を揺さぶるものがありました。

学校を辞して十年近くが過ぎようとしています。今年も登録式への依頼をいただきました。

依頼校の教育目標や子供の実態を調べ、それと青少年赤十字活動の実践項目や態度目標と重ねて講話の準備をしました。

登録式会場には、瞳を輝かせた子供たちがいます。準備してきたことを一生懸命に話しますが、青少年赤十字活動への私の取組や賛助奉仕団の一員としての生き方を問われる時間だと感じています。

登録式の帰路、「先輩諸氏の立ち振る舞いに少しは近づけることができました。」と、自問自答します。

登録式は、先輩諸氏の偉大さを再確認し、青少年赤十字や賛助奉仕団の活動への思いを新たにす再出発の時間です。

校長・教頭・指導主事等対象 青少年赤十字研修会に参加して

行事支援部長 草留 久之

「JRCとは何か？」から始まるこの研修会、毎年六月下旬に開催されます。今年も六月二十四日(土)に終日開催で行われました。

今回は離島を含め県内各小・中学校の管理職の先生方、各教委指導主事の先生方十六名の参加をいただきました。主催は日赤鹿児島県支部と指導者協議会になりますが、賛助奉仕団も運営協力をしています。

研修会では中野事業推進課長による「赤十字の起り」と赤十字活動」の講話に始まり、青少年赤十字活動の概要、各学校の実践事例紹介、グループごとの情報交換等と続き、アツという間の一日研修でした。

特に、鹿屋市立細山田小学校宇井校長や南さつま市教委岩下学校教育課長による実践事例の講話は、すぐ明日からでも活用できる具体的な事例紹介で、地域と連携しての取組や今、身の回りにある困りごとを3K(価値付け、きっかけ、ふりかけ)の合い言葉で実践すること等、有意義な研修機会になりました。

私たち奉仕団のメンバー自身も気づき、考え、実行する人でありたいです。そのためにも次代の青少年のために、そして鹿児島、日本、世界の平和維持、奉仕活動につながる人材育成のためにと願っております。故に、各種研修会、講習会、トレセンについての事業支援活動を更に充実させていきたいです。

青少年赤十字の加盟状況について

令和6年2月29日現在

1 令和5年度 青少年赤十字加盟校

保育園 (26)	認定こども園 (19)	幼稚園 (13)
小学校 (259)	中学校 (104)	義務教育学校 (6)
高等学校 (22)	特別支援学校 (3)	合計452校

2 令和5年度 新規加盟校

小学校 [大浦、伊唐、犬田布]	3校
中学校 [万世]	1校
義務教育学校 [金峰学園]	1校
合計	5校



編集後記

これまで賛助奉仕団は指導者協議会の主催事業を側面から支援する立場にありました。しかし近年はトレセン等のスタッフ不足で賛助奉仕団員が現役スタッフの役割を肩代わりしなければならぬ状況も出てきました。

教員の働き方改革を進めなければならぬ社会情勢の中で、青少年赤十字の必要性は理解しながらも、担当職員に指導者研修会等へ参加の声をしにくくなった管理職も増えてきました。おかげで新たなスタッフの育成が進み、いくつ状況になっていきます。これまでトレセンにスタッフとして長く関わってこられたメンバーも、管理職への登用や離島異動等の関係で、これまでのようなトレセンの運営は厳しくなっています。

賛助奉仕団員として新たな出番が必要になってきた時代の到来かもしれません。

ご多用の中、玉稿をお寄せくださいました関係者、奉仕団員の皆様に心から感謝申し上げます。

(発行担当 研修推進部)

